

明治大学国際連携本部主催 国際シンポジウム

災害と法：複合災害から私たちは 何を学ぶことができるか？

2011年3月11日に起こった東日本大震災はこれまでにない大きな被害を日本にもたらしました。また、放射能汚染は海外にも影響を及ぼしています。しかし、こうした大規模な災害は日本だけでなく、世界各地でもこれまでに発生してきました。グローバル・コミュニティーに生きる私たちは、お互いの経験から学び、被害の予防や減殺に役立てることができるはずです。この国際シンポジウムでは、日米欧と東南アジアの研究者が、それぞれの国における経験を持ちより、被害を発生・拡大しないようにするために何ができるか、回復・再建の過程で生じる問題をどう克服できるのかについて話し合います。

司会： チャールズ・ワイセルハーク

(カリフォルニア大学バークレー校・ショーサー・プログラム・アソシイト・ディレクター)

村山眞維 (明治大学・国際連携副本部長)

講演予定

「福島第1原子力発電所事故の教訓と今後の安全規制の課題」 城山英明 (東京大学)

「EUにおける緊急避難措置」 デイミトリ・ヴォノフ・エルベーク (ルーボン大学)

「被災地再建に関わる諸問題」 ジェラルディン・ヘルマン (チリ・ディエゴ・ポルタレス大学)

ファジャール・トゥーファイル (インドネシア国立科学研究所)

クリッティア・ホーン・ウォンサ (チェンマイ大学)

「カタリナ災害と弁護士活動」 ライリー・モース (ミシシピ司法センター)

「大規模被害と法的賠償」 エリック・フェルトマン (ペンシルヴァニア大学)

「予想を超えた出来事？災害リスクを意思決定にいかに組み込むか」

ダニエル・ファーバー (カリフォルニア大学バークレー校)



日時 2012年3月7日 (水) 14:00-18:00 (開場13:30)

会場 明治大学駿河台キャンパス

紫紺館4階 (S5,6,7会議室)

言語 日本語・英語 (同時通訳付)

参加費無料・定員80名・事前申込不要

主催 明治大学 国際連携本部

共催 明治大学 研究・知財戦略機構 「震災復興支援・防災研究プロジェクト」

カリフォルニア大学バークレー校・ロースクール ショーサー・プログラム

助成 国際交流基金 日米センター

企画 法と社会科学研究所 (ILSS)